



TITLE:

乳兒ノ耐手術性 (其一)

AUTHOR(S):

二行, 星

CITATION:

二行, 星. 乳兒ノ耐手術性 (其一). 日本外科宝函 1927, 4(5): 755-760

ISSUE DATE:

1927-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200070>

RIGHT:

乳兒ノ耐手術性（其一）

一一 行 星

今年日本外科學會ノ會長演說デ『外科ノ本領ハ觀血性手術デアルガ、外科ノ目的ハ却テ非觀血性ニ疾病ヲ治癒セシメントスルニアル、恰カモ陸海軍ノ本領ハ戰爭デアルガ、其ノ目的ハ平和ニアルノト』アナローグ『デアル』ト云フヤウナコトガ述ベラレテ居ル。トモスレバ手術ヲ賣物ニシテ、ナルベク多クノ疾病ヲ專ラ刀ニヨツテ治スコトガ外科ノ本領デアリ面目デアルト解シテ居ルカニ見エ、惹テハ一般カラモサウ考ヘラレ勝ナ傾向者流ノ以テ内ニ省ミルベキ至言デアルト思フ。所詮、醫學（外科ヲ含ム）ハ疾病ヲ對象トスル學問デアルカラ、疾病ノナイ所ニハ存在シ得ナイ。醫學ノ本領ハ本來個々ノ疾病ノ本態ヲ研究シコレヲ治癒セシメルニアルトシテモ、ソノ目的タルヤ實ニ、疾病ソノモノヲ絶滅スルニアルノデハナカラウカ。コノ目的ガ達成セラレタトキ、醫學ソレ自身ハモハヤ存在ノ意義ヲ失フ。

然シナガラ、醫學ガコノ世ノ中カラ消エ去ツテハナラナイ如ク疾病ソノモノノ絶滅モ期シ得ルモノデハナク、恐ラクハ相胃シ相扶ケテ共存共榮ノ軌道ヲ永劫ニ進ムコトデアラウ。

アル疾病ハ、スデニ胎生期ニ於テ始マリ他ノ疾病ハ獲得性ニ個體ヲ殃スル。而シテ何レノ場合ト雖モコレヲ事前ニクサギル術ガナイトシテ、能フベクンバナルベク早ク個體ヲシテソノ苦患カラ免ガレシメルコトハ、寔ニ醫學ノ重大ナル使命デモアラウ。

乳兒外科學ノ意義ハコノ邊カラ源マル。然ラバ乳兒外科トハ如何、ハタマタ乳兒ニ外科手術ヲ行ヒ得ル可能性ハ如何。近者 ハーゲンバッハ氏 (Hagenbach) ノコノ點ニ關スル主張（獨逸臨床外科寶函第四百十五卷）ノ如キ、ソノ當否ハ別トシテ興味ガアル。

元來幼兒ヤ乳兒外科デ、如何ナル時期ニ手術ヲ行フベキカト云フ問題ハ、極メテ重大デアリナガラ、從來諸家ノ意見ハ

カナリニ齟齬シテ居ル。例へば外科醫 (Epitky, Rauff) ハ乳幼児期ニ於テ手術適應ノ範圍ヲ擴張セウトシ、反之、兒科醫 (Göppelt-Jaungstein) ハコレヲ縮小スベシト唱ヘル。他ノ學者 (Dusner, Devenmann) ハ中間ヲトツテ、原則トシテハ早期手術ヲ認メナガラ、尙多クノ制限ヲ設ケヤウトスル。ソコデ個々ノ場合ニ當テ早期手術ヲ行フベキカ否カヲ決定スルニハ無論各自ノ經驗ニ俟ツベキデハアルガ、アル年齡、アル疾病ニハ早期手術ガ適スルカ適シナイカヲ先ヅ見ナケレバナラス。早期手術ニ適シナイト云フコトハ色々ノ内容ガアルガ分リ易ク云へば、手術ノ危險性ト云フコトデアル。モトモト手術ナルモノハ、大人ニ於テモ常ニアル程度ノ危險ヲ意味スルノデアルカラコレニ對シテハアル程度ノ利益ヲ有テ居リ、シカモ此利益トカノ危險トガ得心ノ出來ル關係デ對立シテ居ルモノデナケレバナラス。危險ガ多クテ利スル所ノ少ナイモノハ手術ト名ケルコトハ出來ナイ。ソレ故ニ一方ニ於テ早期手術ヲ決行スベキ如何ナル理由ガアルカラ探鑿シ他方ニ於テハ、其危險ノ度ハ如何ホド大デアルカラ常ニ酌量シタ上デ初メテ早期手術ヲ推奨スルカ、或ハ忌避スルカバ定マルノデアルガ事實上コノ二點ニ就テノ諸家ノ意見ハ區々デアル。

一、手術ノ見地ヨリスル乳兒外科的疾患ノ分類ト早期手術ノ根據。

今、ハーゲンバッハ氏ノ分類ニヨルト、

I 所謂緊急手術ヲ要スル疾病

- (一) 即時手術ヲ要スルモノ、
各種嵌頓「ヘルニア」 腸鼻積症 惡性腫瘍 其他
- (二) 即時手術ノ要ハナキモノ、

嵌頓ノ傾向アル各種「ヘルニア」 幽門筋痙攣症、其他

II 爾餘ノ疾患

- (一) 直接生命ニ關セザルモノ
 - (イ) 放置スレバ二次的ニ障碍トナルモノ
 - (ロ) 永ク放置シテモ大シタ障碍ニナラスモノ
- 先天性股關節脫臼 斜頸 內翻足 兔唇 頤口蓋破裂 增殖性良性腫瘍、其他

(二) 經過中ニ緊急手術ヲ要スルニ至リ得ルモノ
各種「ヘルニア」、其他

トアル。Iハ手術以外ニ治ス方法ノナイ疾患、IIハ手術ナシニモ治ルコトノアル疾患デアル。茲デ緊急手術、殊ニ不還納性嵌頓「ヘルニア」ヤ腸疊積症ノ如キモノハ、關生命的適應(Indicatio vitalis)ガ外科的侵襲ヲ餘義ナクスルノデアルカラ時期ノ決定ハ簡單デアル。惡性腫瘍ニ向ツテモ同様デ局所ノ關係ガ許ス場合ニハ即時手術スベク此際年齡ニ拘泥サルベキデハナイ。然シナガラ關生命的適應必ラスシモ即時手術ヲ強要スルモノデハナイ。例ヘバ嵌頓ノ傾向アル各種「ヘルニア」、幽門筋痙攣症ノ如キモノガソレデアリ、從テ意見ガ色々ニ分レテ患兒ガモウ少シ大キクナルマデ延期スルヤフナコトガハジマル。此種ノ「ヘルニア」ノ大多數ハ還納シ得ルノト腸ノ障害サレルコトガ大人デヨリモ遙ニ稀デアリ、又腸切除術等ハ却テ大人デヨリモ重篤ナ手術ニナル等ノ關係デ、還納術ヲ應用サレル場合ガ多イ。コレハ數回ノ熟練デ大抵成功スルモノデアルカラ必ラズ試ミルガヨイガ、一體嵌頓ナルモノハ、短時間内ニ起ルモノデアリ、還納術ノ達否ハ容易ニ見分ケノツクモノデアルカラ、不成功ト見タラスグニ手術ニ附スベキデアル。幽門筋痙攣症デハ、症狀ノ發來ガ「ヘルニア」ホド急激デナク從テ分リニクイ。ノミナラズ保存療法ノ達否ガシカク明瞭デナイ。ソコデ兒科醫ハ侵襲ニ對スル恐怖カラナルベク手術ヲ延期セウトスル。ソノ結果、緊急手術ノ止ムナキニ至ツタトシテモ、診斷確定ノ直後カ或ハ内科的療法ノ無効ナコトガ分ツタ時、スグニ手術スルヨリハ豫後ガ著シク惡イ。

カクノ如クI群ハ、トニ角ニ緊急手術ヲ要スルモノデアルガ、II群ニ屬スル疾患ハ療法ヲ加ヘナイデモ普通、直接生命ヲ脅カスコトハナク、ヨシ緊急手術が必要ニナルトシテモ長年月ノ後ノコトデアリ、一生ソノ必要ノ來ナイ場合モアル。ケレドモソノ全部ガ安定ナノデハナクテ、中ニハ内科的療法ニヨル治癒、或ハ偶然治癒ナドヲ期待出來ナイノミナラズ却テ増惡スル場合ガアリ、初ノ中外科的又ハ整形外科的療法ヲ怠ツテモ生命ノ危險ハナイガ、病症ガ進行スレバ遠カラズ手術ノ止ムナキニ至ルモノモアル。例ヘバ増殖性良性腫瘍(最膿血管腫)ノ如キガソレデ、コレラハ出來得ル限リスグニ切

除術ヲ除去シタイモノデアル。マタ内翻足、先天性股脱臼、斜頸ナドハ漸次増悪スルカラナルベク早期ニ處置シタガヨク、殊ニ内翻足ヤ先天性股脱臼ノ如キハ觀血性手術デナイノデアルカラ問題ハナイ。更ニハ氏ハ云フ。

先天性股脱臼ノ治療ニ最モ適スル年齢ヲ最近ノ成書ガ生後二—三年トシテ居ルノハ目ニツク。コレハソノ以前ニハ屢診斷ガ不確實ダカラト云フノデアラウガ、骨頭ト骨頸トノ離開ガ短カイホド醜形ガ少ナイノデアルカラ診斷ガツキ次第ニ整復シテ欲シト。事實彼ハ生後六ヶ月ノ乳兒ノ二例ニ於テ本症ヲ診斷シ整復—固定—治療ト、彼ガモット大キイ患兒デハ嘗テ經驗シナカツタホド容易ニ且迅速ニ成功シテ居ル。

斜頸ニ就テモスピッチー氏ハ、最、早期期ニ行ハル、早期手術ダケガ合理的ダト云ヒ、フレンケル (Frenkel) 氏亦同様ノ要求ヲシテ居ル。

唇頤口蓋裂ハコレト少シク關係ヲコトニシ、其ノ危險ハ主トシテ榮養法ノ行ヒ難イコトト、呼吸機疾患ヘノ素因トニアルヤウ成書ニハ記載サレテ居ルガ、實際榮養法ノ出來ナイコトノ爲ニ手術ヲ要求セラル、場合ハムシロ例外ニ屬スル。兔唇、口蓋裂ナドモ理由コソ異ナレ何レモ早期手術ガ望マシイ。即單純兔唇ニアツテハ整容的ノ結果ガ大切ナ役ヲスルノデアルカラ、整形術ガ早期ニ行ハレルダケヨイノデアル。ト云フノハ組織ハ幼若ナダケ適合性が強イカラ、匡正サレタソノ位置デヨク生長シ均整作用ガ後年期手術ニ比シテ、ヨリ充分ニ行ハレルノデアル。一方ニ於テ兔唇ノヤウニ目ニツキ易ク醜形ノ強イ疾病ハ、兩親トリハケ母親ニトツテハ、毎日心配ノ種ニナル。アル地方デハ兔唇ノ子ヲ産メバ兩親ノ恥デアルトセラレ、殊ニ母親ニ何カ道德的、マタハ肉體的ノ缺陷ガアルカラダト做サレル。ソノ爲ニ色々ナ罪惡ガ行ハレルコトモアル位デアルガ、此ノ際生後第一週デ治シ得ルコトヲ知ラセテヤレバ兩親ニトツテハ全ク人助ケデアル。又兔唇ニ頤裂ヲ伴フ場合(此ノ場合口蓋裂ノ有無ニ拘ラズ)早期ニ手術スレバスルホド、間顎骨ト上顎骨トノ融合ガ益々緊密ニナル。

II 群中ノ(二)ニ屬スルモノハ、普通ノ鼠蹊「ヘルニア」、臍「ヘルニア」等デ一般ニ手術ナシニデモ治癒スル可能性ガカナリニ多イト考ヘラレテ居ル所ノモノデアル。然ルニランフト氏ハ嘗テ幼年期ノ鼠蹊「ヘルニア」手術ノ問題ヲ論ジ

テ乳兒期ニ特別ノ注意ヲ向クベキ事ヲ以テシタ。ハ氏ハコレヲ一層擴張シテ自然治癒ノ甚ダ少ナイコト、保存療法ノ實行ガ頗ル困難デシカモ其結果ガ不確實ダト云フコトヲ力説シ早期手術ヲ獎勵スル。

元來、乳兒ノ鼠蹊「ヘルニア」ハ随分多イモノデアルカラ、モシ自然治癒ガ稀ダトスレバ大人ノ同病ハ多々益々多カルベキ筈デアルニモ拘ラズ、實際ハシカク多クナイ。

コレハ無論、自然治癒説ニ重キヲ置ク人々ノ論據デアルガハ氏ニ從ヘバ、スウイス國内ノ大病院年報及徴兵検査ノ際ノ統計ニアラハレタ所デハ大人ノ鼠蹊「ヘルニア」ハ非常ニ多ク、又中年男子ノ本病ニ就テ詳シク調べルト、既ニ乳兒時代ニアツタモノガ著シク多イ。カク大人ニ於テ鼠蹊「ヘルニア」ガ著シク多イノハ、幼時手術ヲウケナカツタモノガ一見治癒シタヤウニ見ヘタニスギナイ。

臍「ヘルニア」ニ就テモ小兒科醫ハ時ガ經テバスベテ根治スルト主張シウセネル氏ノ如キモ大人デ臍「ヘルニア」ノ比較的少ナイノハ其ノタメダト云ツテ居ルガ、ハ氏ハヤハリコレヲモ否定シ、シカク稀デナイトスル。殊ニ大人ノ臍「ヘルニア」ハ一般ニ何等患苦ヲ與ヘナイト云ハレテ居ルニ對シテ、氏ノ一例ハ注意ヲ要スル。

慢性蟲樣突起炎デヨク説明ノ出來ル腹痛ト、別ニ上腹部徴候群ト漠然記載スルヤウナ症狀ヲモツ一成年男子デ外科ノ方カラハ胃潰瘍ノ疑デシラベタガサウデモナク、胃専門ノ病院デ六週間モ治療シテ見タガ効ガナイ。ノミナラズ患者ハ精神的ニモ肉體的ニモ漸次衰弱シテ自カラ、胃癌ト決メテ了ツタ位デアツタガ、氏ハコノ患者ヲ偶然診察シテ慢性蟲樣突起炎ノ他ニ上腹部症候群ノ原因トシテ、一小臍「ヘルニア」ヲ見ツケテ、兩方同時ニ手術シ、爾來全ク健康體ニナツタ。

ハ氏ハ此ノ例ノミト云ハズ、一般ニ食後發作性ニ起ル不定ナ腹部壓重感ヲ主訴トスル患者ガ臍「ヘルニア」ニ起因スルコトハ随分多イ、コノ場合普通デハ無論蟲樣突起ガ罪ヲ被セラレ切除セラレルガソレデモ依然トシテ去ラナイ症狀ニ對シテハ腸管癒着、大腸炎ナドデ片付ケラレテシマフ、助カラナイノハ患者デアルトスル。ケレドモ氏自身、タトヘ臍、臍圍又ハ上腹「ヘルニア」ヲ見付ケタトシテモ、ソノ際腹部臟器ヲスベテ精密ニシラベタ上デナケレバ眼前ノ腹部鈍痛ノ原因

ヲ直チニソレデ説明シテハイケナイト戒告スルコトヲ忘レナイ。

果シテ大人ノ臍ヘルニアガ氏ノ云フ如ク多イカ、マタ乳兒ノ本病ニ自然治癒或ハ内科的治癒ノ望ガ少ナイカ、ソレハ別トシテ既ニザイフェルト (Zeilert) 氏等モ臍「ヘルニア」ノ手術成績ガ大人デハ甚ダ不確實デ幼兒デハ著シク良好デアルト述ベタ。タトヘ手術後ノ再發ハナキニシモアラズトシテ熟練セル技術ヲモツテスレバ、ソノ頻度ハ低下スルコトガ出來ヤウ。

ハーゲンバツハ氏ノ高唱スル早期手術ノ利益ハマダアル。生後半ケ年位ハ患兒ノ精神作用ガアマリ發達シナイ時期ニアタルカラ、吃度避ケラレルト限ラナイ手術ナラ此期間ニヤレバ患兒ノソレニ何等ノ痕跡ヲノコサナイ。二—三歳ガ最モ惡イ影響ヲ與ヘ、手術時ノ疼痛ノ去ツタ後ト雖モソノ不快ナ回想ニヨツテ泣キベソニナル。コレ以上ノ年齢ニナレバ却テ手術ニヨツテ病苦ガトリ去ラレタコトヲ喜ブ位ニ發達スルモノデアル。又手術ノ疼痛ニ對スル拮抗運動ヲ牽制スルニモ乳兒ノ方ガヤリ易クテ危險ガ少ナイ。一年以上ノ患兒ヲ無理ニ縛リツケタリ、腕筒ニ入レタリシテ手術スルコトハ屢深刻ナ道德的印象ヲ與ヘ、憂鬱ニナツタリ剛情ニナツタリスル。

ゲッベルト・ラングスタイン氏ガ早期手術後乳兒ノ榮養法ガ多ク不行届ニナルコトハ經驗上危險デアルト云ツテ居ルノハ、マツタク其通りデアルガ、コノ危險ハ榮養法ニ十分ノ注意ヲスル病院——小兒科病院ノ外科デ手術スレバ全ク除去スルコトモ出來ヤウ。但シ生後一年以上ノ患兒ヲ母親カラ引キ離スコトノ精神的影響ニ至ツテハ、如何ニ慈愛ニ滿チタ看護ヲ以テシテモ償フコトハ出來ナイ。社會問題トシテ之ヲ觀テモ、例ヘバ「ヘルニア」保存療法ノ如キ、家族ニトリ、殊ニ母親ノ用事ガ患兒ノ爲ニ増スコトハ損デアリ、實際母親ニ閑ガナクテ適當ナ時期ニ綳帶交換ニ行ケナイト云フヤウナ場合ガ随分多イデアラウ。從テ其効果モ推知サレルノデアル。費用ノ點カラ云ツテモ、幽門筋痙攣症ノ如ク保存療法ニ入院ヲ要スルモノハ、期間ガ永クカ、ルダケニ却テ増嵩スル。ソノ他、嵌頓ニ對スル不斷ノ脅威、保存療法ノ苦痛ニヨル患兒ノ不機嫌、ソレニ依テ起ル家庭和樂ノ攪亂等、ドノ點カラ考ヘテモ早期手術ニ限ルノデアル。

(未完)